

わたしのくらし 地域の歴史⑪ 小学校時代の思い出

平成25年3月6日(水)に梅香会(ばいこうかい)福生第二小学校を昭和29年3月に卒業した6年1組の同窓会)が白梅会館を会場に開かれました。当時の子ども達も今では71〜72歳、担任の石上正夫先生を囲み、思い出話に花が咲きました。今回の「わたしのくらし 地域の歴史」は、この時のお話を基にまとめてみました。――

学校図書館をつくれ！

石上先生は昭和25年に福生第二小学校に赴任されました。当時、東秋留村二宮(現在のあきる野市)に下宿をしていました。もちろん独身でした。

戦後、GHQから学校図書館の整備が指示されました。昭和23年12月、文部省(当時)は『学校図書館の手引き』を発行し、昭和28年8月には学校図書館法が成立(施行は29年4月)、学校に学校図書館を設置することとなりました。石上先生はその担当でした。

とはいえ、学校図書館をつくるための予算もなく、石上先生は授業が終わるとリヤカーをひいて古新聞や空きビンなどを集め、それを売って資金づくりをしたそうです。そのような行動に対して廃品回収業者から抗議を受けたそうですが、きちんと説明すると、集めた古新聞等を引き取ってくれるほどの関係になった、とのことでした。先生の熱意が伝わった瞬間でした。

子ども達(梅香会の皆さん)も学校のお茶の木の垣根からお茶葉を摘んで、そのお金を図書購入費にあてた、とのことでした。

石上先生は東京都か福生町(当時)の指示かわかりませんが、「農村における学校図書館と読書指導」の研究者として、5年がかりで論文をまとめたそうです。そして、二小に学校図書館ができたところと、人事異動となり昭和30年4月に東京の芝浦小学校に転任されました。同窓会当日、二小をご覧になられた先生は、現在の学校図書館が蔵書も充実し、14名の図書ボランティアのお母さん方に支えられ、他市からも視察に訪れるほど立派なものになっていることに感慨深げでした。

子ども達の思い出

石上先生は独身だったこともあり、よく宿直をやられていました。そこへ子ども達は遊びに行ったそうです。また二宮の下宿先にもよくおじゃましたそうです。その時に子ども達は家から鮎などの魚の煮付けを持って行った、とのことでした。また、先生にお使いを頼まれたという話など、今の学校ではとても考えられないね……と感慨深く語っておられました。



石上正夫先生(写真中央)を囲んで記念撮影 2013.3.6 福生第二小学校玄関前にて (写真提供:梅香会 森田芳伸氏)

※1ページからつづく

定員 20人(応募者多数の場合)

は、保育室に子どもを預ける15人の方を優先し、責任抽選)

講師 木村陽子氏(管理栄養士、子育てサロン主宰)

費用 食料費1500円程度

申込み 4月6日(土)午後5時

までに公民館白梅分館 ☎553・3454へ ※保育を希望の方は白梅分館窓口へ

「保育室について」

保育室は、子どもが仲間の中で遊びを通して育つ場です。「子どもにとって」という視点から保育を行い、その中で見えてくる子どもの成長について、学習会で話し合います。

対象 1歳以上未就学の幼児

※0歳児については定員に満たない場合に限り、参加幼児の年齢構成等を考慮し受付。詳しくはお問い合わせください。

定員 15人(定員を越えた場合は保育室併設講座に子どもを預けて参加された経験の少ない方を優先します。)

費用 おやつ代700円(14回分)

申込み 講座と一緒に申し込みください。

※講座期間中、公民館の託児保育付講座との重複参加はご遠慮ください。



多摩川での水泳・撮影年代は不明。
(写真提供: 福生第二小学校)

学校にはよく米兵が来たそう、先生は直ぐに警察署に電話をしたそうです。すると警察官からは宿直室に力ギをかけて、じっとしているという指示があったそうです。警察も手が出せなかったようです。

いたずらな子ども達

鬼ごっこでは、縁の下にもぐったり、天井に登ったり、渡り廊下の屋根にあがったり……先生にみつかつてよく叱られたそうです。黒板拭きを教室入口のドアの上に置くのは当たり前、いたずらもよくしました。

子ども達はトイレの掃除からなまでに自分たちで行ったそうです。

そういう経験が今では良かったのだと語ってくださいました。

地域の子どもだった

学芸会は地域の親たちが大勢で見に来てくれました。たとえ自分の子どもの学年が終わっても席を立たず、地域の子どもの演技をしっかりと見届けてくれたそうです。そうやって地域の子ども達を見守っていたのだと思います。

運動会も地域のお祭りのようでした。徒競争のスタート地点は白梅会館の建物のあたりだったそうです。道路を突っ切って二小に向かって走った、とのことでした。

多摩川で水泳

水泳も学校にはプールがなく、子ども達は多摩川で泳いでいました。現在の睦橋の上流に「こぼん」と呼ばれるところがあり、そこで水泳の授業が行われていたそうです。当時の多摩川はまだ小河内ダムができる前で水量も豊富にありました。

玉川上水や熊川分水でもよく泳ぎました。玉川上水の幸楽園付近にコンクリートの小さな橋がありましたが、そこから飛び込んで青梅橋まで泳ぐ、ということでした。もちろん、今も昔も玉川上水は遊泳禁止です。川番という都の水道局の職員が

点検に回ってきて、泳いでいるところをみつかってよく追いかけられました。捕まった子もいたそうです。

日記を毎日書かされた

子ども達が先生の授業で特に印象深かったのは日記を毎日書かされたこと、そして作文をよく書かされたことだったそうです。あまりいい思い出ではなさそうでしたが、作文がラジオの放送で流された、というお話や素直に書けと言われたから素直に書いたら、親に怒られた、というお話も出されました。

石上先生は子ども達に具体的にきちんともを見る、ということを習慣付けるために、日記指導をしました。そして、この中から将来作家が出るであろうことを期待されていたそうです。その時の文章も製本してきちんとしてあるそうです。その期待に応えられたかは定かではありませんが、その後、先生自らが作家になられ、現在もご活躍されています。

―梅香会の会合にお邪魔させていただき、参加されたお一人おひとりの元気ではつらつとした姿に感動を覚えるとともに、こうして集まれる絆の深さに、そして素晴らしい仲

文学講座

「中里介山と『大菩薩峠』の世界」

羽村で生まれ育った

近代文学の巨匠、中里介山の生涯や時代背景、思想などを

知り、未完の大河小説『大菩薩峠』を読み

ながら作品の世界を味わっていきます。また多摩を中心に介山ゆかりの地を訪ね、足跡をたどっていきます。



日時 4月19日(金) 午後2時〜4時 以後、原則として毎月第3金曜日 全12回

場所 公民館白梅分館

対象 市内在住・在勤の方

定員 先着15人

講師 菅井憲一氏(百合女子大学非常勤講師)

用意するもの 小説『大菩薩峠』

※お持ちでない方はご相談ください

(い)

申込み 4月5日(金)から白梅分館 ☎ 553・3454へ

間がいろいろのことの大事さに改めて気づかされました。

皆さんのご健康と益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。―